

ご自身を隠す神——隠れた神

聖書：イザヤ 45:15． エペソ 3:16-17． ピリピ 2:13． ルカ 18:1-8

I. 「まことに、イスラエルの神、救い主よ、あなたのご自身を隠す神です」
——イザヤ 45:15：

A. 聖書が神を、ご自身を隠す神として語っていることを知っている神の子供たちは、ほとんどいません——イザヤ 45:15：

1. この事が証明しているのは、神の子供たちが、ご自身を隠す方としての神についての十分な認識を持っていないということです。
2. わたしたちは神を、大能の神、義なる神、恵みと慈愛に満ちた神として知っているかもしれませんが。しかしながら、わたしたちは神を、ご自身を隠す神として知らないかもしれません——ルカ 1:49． I ペテロ 5:6． 啓 15:3． エペソ 2:7． 詩 17:7。

B. わたしたちの神は、遍在し、全能であり、赦しに満ちていますが、彼はまた隠れている神です。それはエステル記が示しているようにです——エステル 4:14。

C. 神は宇宙を創造しました。その後、神は、わたしたちが神をどこに見いだすのかわからないほどまでに、宇宙の中にご自身を隠しました——ヨブ 23:3。

D. 神はイスラエルの子たちの中で数えきれないほどの事を行ない、また彼らの個人的な生活の中で数えきれないほどの事を行ないましたが、ご自身を隠しました。彼は絶え間なく働いていましたが、いつも隠れていました——イザヤ 45:15。

E. わたしたちが認識する必要があるのは、わたしたちが仕えている全能の神が、今もなおご自身を隠しているということです。特に、彼がわたしたちを助けている時はそうです——ヨハネ 14:26． ローマ 8:28：

1. わたしたちは神を見ることができません。また、一見すると彼は何も行なっていないかのようです。
2. 実は、神は力をもって、彼の霊を通して、わたしたちを内なる人の中へと増強しており、そうして、キリストがわたしたちの心の中にご自身のホームを造るときに、神は隠れた方法で、わたしたちのために多くの事を行なっています——ローマ 8:28， 34． エステル 4:14． ピリピ 2:13． エペソ 3:16-17 前半。

F. ご自身を隠す神は、わたしたちの中で静かに、しかし力強く活動しています——ピリピ 2:13：

1. わたしたちの責任は、わたしたちの内側深くにある内なる感覚に応答することによって、神と協力することです——ローマ 8:6。
 2. わたしたちは、生きていて行動する神を内側で感じるときはいつでも、アーメンと言うべきです。なぜなら、ご自身を隠す神は、わたしたちの存在の深みにおいて、ひそかに、絶え間なく働いているからです。
- G. わたしたちが聖書を注意深く学ぶなら、神はあたかも誇示することを好まない気質を持っているかのように見えます。神は公に働くよりも、ひそかに働くことを好みます——マタイ 6:1-8。
- H. わたしたちの性情は、神の性情とは正反対です。神の性情は、自らを隠す性情です——イザヤ 45:15：
1. 神は隠すことを好みますが、わたしたちは誇示することを好みます——マタイ 6:1。
 2. 神は外側の現れを求めませんが、わたしたちはそれがなければ満足することができません——2 節。
 3. この神聖な性情は、わたしたちにとって大きな試練またテストです。
- II. エステル記は、イスラエルの隠れている神が、どのように離散の中でしいたげられている神の選民をひそかに顧み、捕囚の中で迫害されている神の選民を公に救ったかの生き生きとした記録を与えます——エステル 1:1-22. 2:1-23：
- A. この書の極めて重要な点は、イスラエル、アブラハムの子孫をご自身の選民として選んだ神が、彼らを捕囚へと異邦人の国に渡した後、彼らにとって隠れた神となって、秘密の内に行動し、ひそかに彼らを顧み、公に彼らを救ったということです——イザヤ 45:15：
1. こういうわけでエステル記は、神の御名が述べられるべきである所でさえ、神の御名を述べていないのです——エステル 4:3, 16。
 2. 一方で、神は異邦の諸国民を、神の民を懲らしめる道具として用いました。もう一方で、隠れている神はイスラエルの民と共にいて、彼らを顧みていました。
- B. 隠れている神は、ひそかな方法でイスラエルのために多くの事を行ないました：
1. 隠れている神は、異邦の世界において、インドからエチオピアに至る大帝国の上に、力を伴う一人の最高の王を立てました——エステル 1:1-2。
 2. 隠れている神は、最高の王の言葉に対する王妃の不従順のゆえに、最高の王に彼女を捨てさせました——3-22 節。

3. 隠れている神は、ユダヤ人の孤児の処女、エステルを起こして、最高の王によって王妃の位に就かせました——2:1-18。

C. 神は捕囚の時代の間、隠れていました。そして彼はなおも隠れています。召会時代の今日でさえ、神はご自身を隠しています——イザヤ 45:15。

III. ルカ第 18 章 1 節から 8 節のたとえの意義は深遠です。わたしたちは、隠れた神として啓示されている神を認識する必要があります：

A. 3 節のやもめは、信者たちを表徴しています。ある意味で、キリストにある信者たちは、今の時代ではやもめです。なぜなら、信者たちの夫であるキリストが表面上、彼らと共におられないからです——II コリント 11:2。

B. たとえの中のやもめのように(ルカ 18:3)、わたしたちキリストにある信者たちにも、訴える者である悪魔サタンがいます。この訴える者に関して、わたしたちは神に復讐^{ふくしゅう}していただく必要があります。

1. このたとえは、主が表面上、不在の期間に、わたしたちを訴える者からわたしたちが受ける苦難を示しています。

2. 主が表面上、不在の期間、わたしたちはやもめであり、わたしたちを訴える者は常にわたしたちを悩ませます。

C. わたしたちを訴える者がわたしたちを迫害している間、わたしたちの神は義でないかのようです。なぜなら、神は、彼の子供たちが不義な迫害を受けるのを許しているからです——I ペテロ 2:20. 3:14, 17. 4:13-16, 19:

1. 何世紀にもわたって、主イエスに誠実に忠信に従う何千何万という人たちが、不義な迫害を受けてきました。今日でさえ、多くの人、不義な虐待を受けています——啓 2:8-10。

2. わたしたちの神は介入して裁かず、擁護しないので、公正ではないかのようです。この状況のゆえに、主イエスは不義な裁判官を用いて、ご自身の迫害される民のために何も行なわないように見える神を表徴しました——ルカ 18:2-6。

D. このたとえのやもめは、いつも不義な裁判官の所に来て、彼女を訴える者に対する復讐を彼に求め続けました。わたしたちはこの復讐を求めてしつく(根気よく)祈るべきであり、失望するべきではありません——ルカ 18:1, 3:

1. わたしたちの夫が表面上、不在で、わたしたちが地上にやもめとして残されているとき、一時的に、わたしたちの神は不義な裁判官であるかのようです——6 節。

2. 神は不義であるかのようにですが、わたしたちは依然として彼に訴え、しつこく(根気よく)祈り、彼を何度も煩わさなければなりません。それは神が、「日夜ご自身に叫び求める」選ばれた者の復讐を速やかになすためです——7-8 節前半。
- E. 啓示録第 8 章 5 節は、第 6 章 9 節から 11 節とルカ第 18 章 7 節から 8 節とに対する答えを暗示しています：
1. 啓示録第 8 章 3 節から 4 節における聖徒たちの祈りは、神のエコノミーに反対する地に対する裁きを求めるものであるに違いありません。
 2. 地に対する神の裁きは、すなわち、地に火を投げることは、香としてのキリストを伴う聖徒たちの祈りに対する答えです——啓 8:3-5。
- F. 「人の子が来る時、地上に信仰を見いだすであろうか？」——ルカ 18:8 後半：
1. 「信仰」と訳されたギリシャ語は、文字どおりには、「その信仰」を意味します。これは、やもめの信仰のような、わたしたちのしつこい(根気のある)祈りのための、根気のある信仰を示します。
 2. わたしたちがそれを通して救われた信仰は、初期の段階の信仰です。わたしたちをキリストとの命の結合の中へともたらした信仰は、結び付ける信仰、すなわち、わたしたちが三一の神と絶えず接触することを通してわたしたちの中へと入って来る信仰です。それは、わたしたちが神の御子によって生きるためです——ローマ 1:17. ガラテヤ 2:20. ヨハネ 14:19。
 3. 結び付ける信仰は、勝利者に対する神聖な要求です。それは、キリストが勝利のうちに再来される時、勝利者がキリストにまみえるためです——ルカ 18:8 後半：
 - a. 結び付ける信仰は、わたしたちの中で行動する三一の神であり、わたしたちを彼の計り知れない豊富に結び付けます——エペソ 3:8。
 - b. 結び付ける信仰は、自分自身に信頼しない信者たちの信仰です。むしろ、彼らの信頼は神にあります——II コリント 1:9。
 - c. 主イエスは再来する時、結び付ける信仰によって生きている多くの勝利者たちを見いだします。彼はご自身の統治の千年間において、彼らをご自身の王国のための宝と考えます——ルカ 18:8 後半. 啓 20:4, 6。